研究・調査報告書

<table>
<thead>
<tr>
<th>報告書番号</th>
<th>担当</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>214</td>
<td>滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門</td>
</tr>
</tbody>
</table>

題名（原題／訳）
Patterns of alcohol use, problem drinking, and HIV infection among high-risk African women.
ハイリスクなアフリカの女性集団における飲酒パターン、問題飲酒と HIV 感染

執筆者
Fisher JC, Cook PA, Sam NE, Kapiga SH.

掲載誌（番号又は発行年月日）

キーワード
アルコール、飲酒行動、女性、HIV、性感染症

要 旨

目的:
ハイリスクのアフリカ人女性集団において、飲酒パターンと HIV 感染の関連を検討し、さらに問題飲酒と HIV 感染危険因子との関連を評価する。

方法:
ベースラインデータは HIV 感染の危険因子調査のための前向きコホート研究に 2002 年と 2003 年の間にエントリーした 1050 人の女性より得た。人口学的情報や就業状況、性行動、飲酒パターンについての情報は、面接により得た。問題飲酒を評価するために CAGE 質問票を使用した。飲酒に関する尺度と HIV/性感染症感染、性行動との関連は、オッズ比、調整後のオッズ比（AOR）および 95 % 信頼区間（CI）を用いて検討した。

結果:
HIV 陽性であった者は 19.0% (95 % CI 16.6 % - 21.4 %) であった。女性全体の 73.9 パーセントに飲酒習慣があり、34.6 % は問題飲酒と分類された。身体計測値や就業に関する変数の調整後、飲酒者は非飲酒者と比較して HIV 陽性リスクが上昇していた （AOR 2.10；95 % CI、1.29-3.42）。
飲酒開始からの期間、頻度、摂取量により示されるアルコール関与度が大きいと、このリスク上昇と関連した。問題飲酒者、非問題飲酒者と比較して HIV 陽性のリスクが上昇していた （AOR 1.79；95 % CI 1.06-3.04 vs. AOR 2.43；95 %CI 1.45-4.06）。問題飲酒者は、数種類のハイリスクな性行動をもつ傾向があり、HSV - 2 を含む他の性感染陽性であるリスクも高かった。

結論:
飲酒の制限、あるいは禁酒を促すプログラムにより、ハイリスクな行動を減らし、この集団における HIV/性感染症の負担を軽減することに役立つかもしれない。